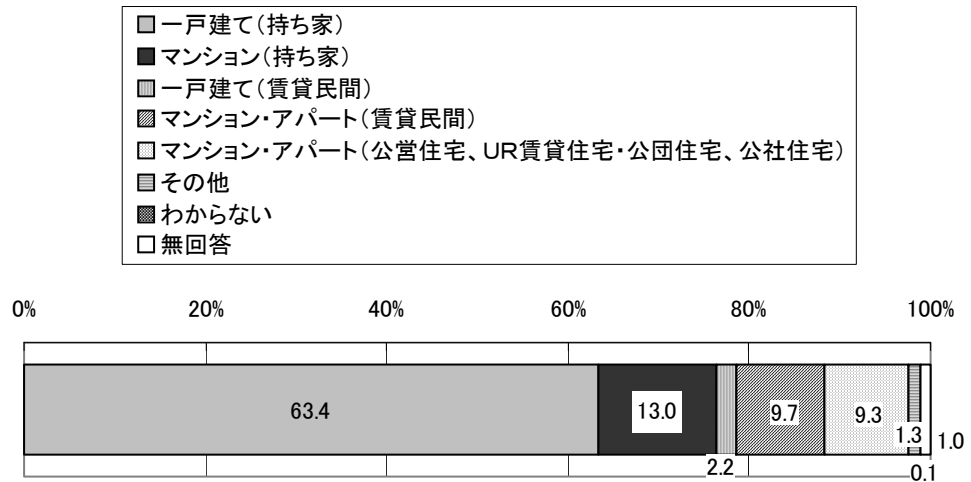


5. 住宅用火災警報器の設置について

5-1 住宅の形式

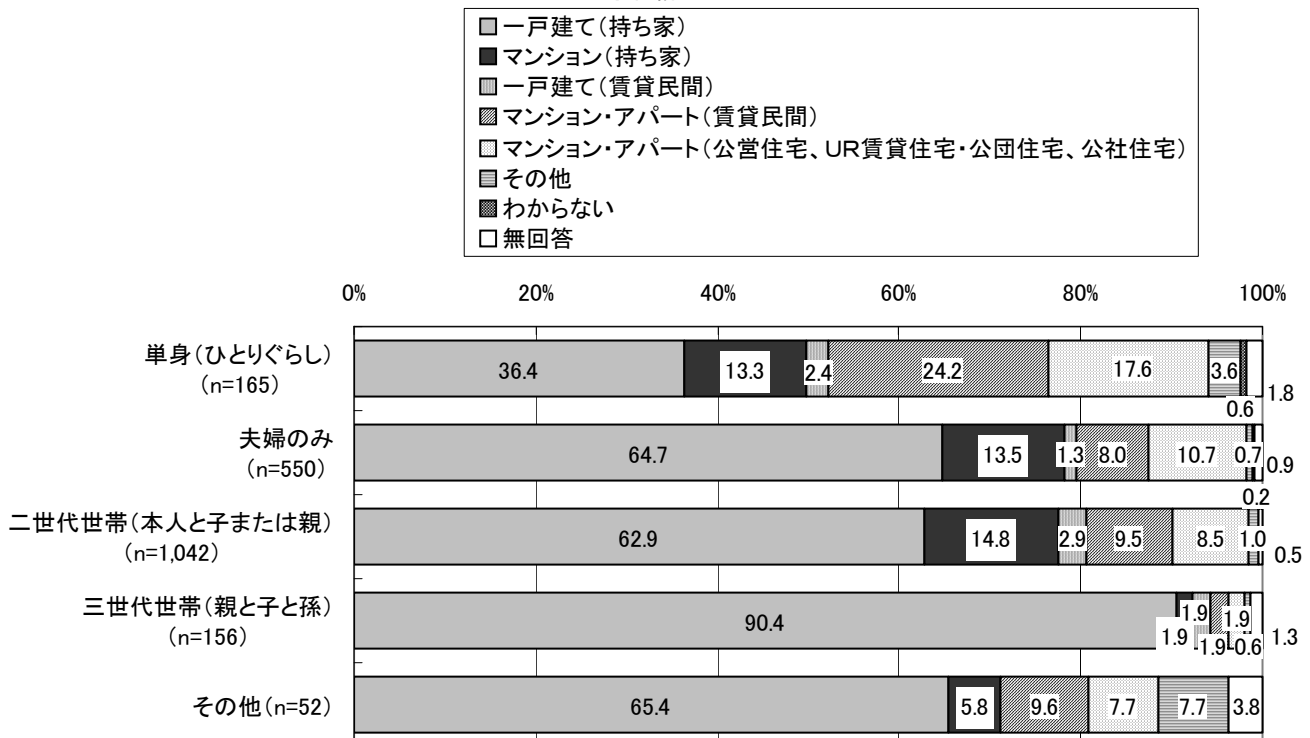
問14 住宅用火災警報器の設置状況をお聞きする前にお伺いします。あなたがお住まいの住宅の形式はどれになりますか。(1つ選択)

図 5-1 (住宅の形式) 【n=1,980】



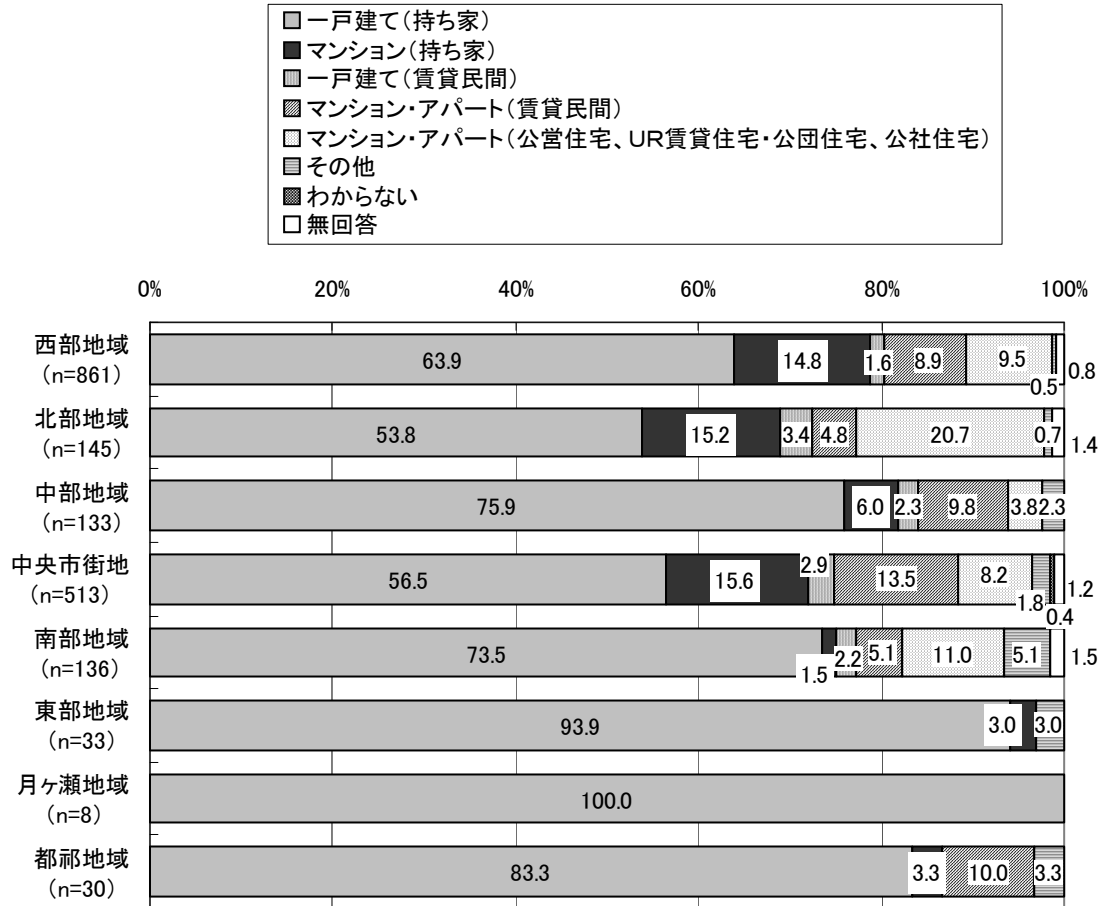
お住まいの住宅の形式は、「一戸建て(持ち家)」が6割強を占めている。次いで、「マンション(持ち家)」が13.0%、「マンション・アパート(賃貸民間)」が9.7%、「マンション・アパート(公営住宅、UR賃貸住宅・公団住宅、公社住宅)」が9.3%、「一戸建て(賃貸民間)」が2.2%という状況である。(図 5-1)

図 5-1-1 (家族構成別 住宅の形式)



家族構成別にみると、三世帯世帯では「一戸建て（持ち家）」が高く9割を占めている。
 (図 5-1-1)

図 5-1-2 (地域別 住宅の形式)

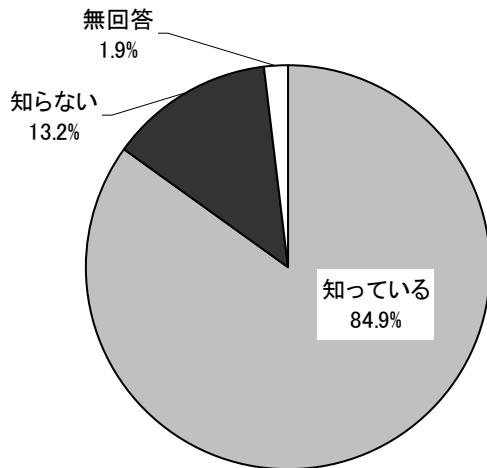


地域別にみると、月ヶ瀬地域、東部地域、中部地域、南部地域では「一戸建て（持ち家）」が他の地域より高い。(図 5-1-2)

5-2 住宅用火災警報器の義務付けについて

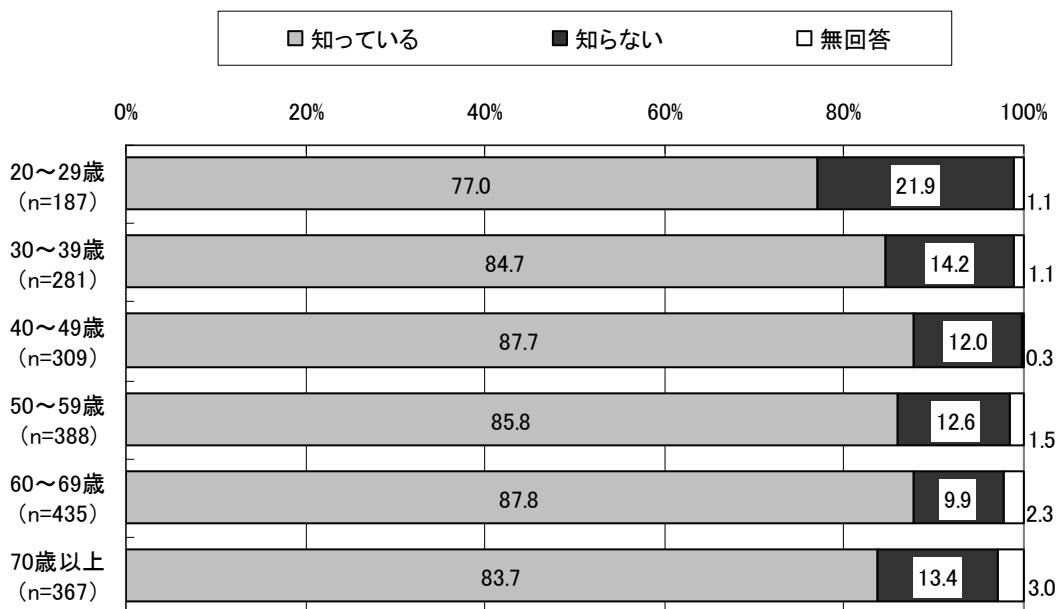
問15 消防法の改正により、住宅火災における死者数の低減を目的として、住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。あなたは、このことをご存知ですか。(1つ選択)

図 5-2 (住宅用火災警報器の義務付けについて) 【n=1,980】



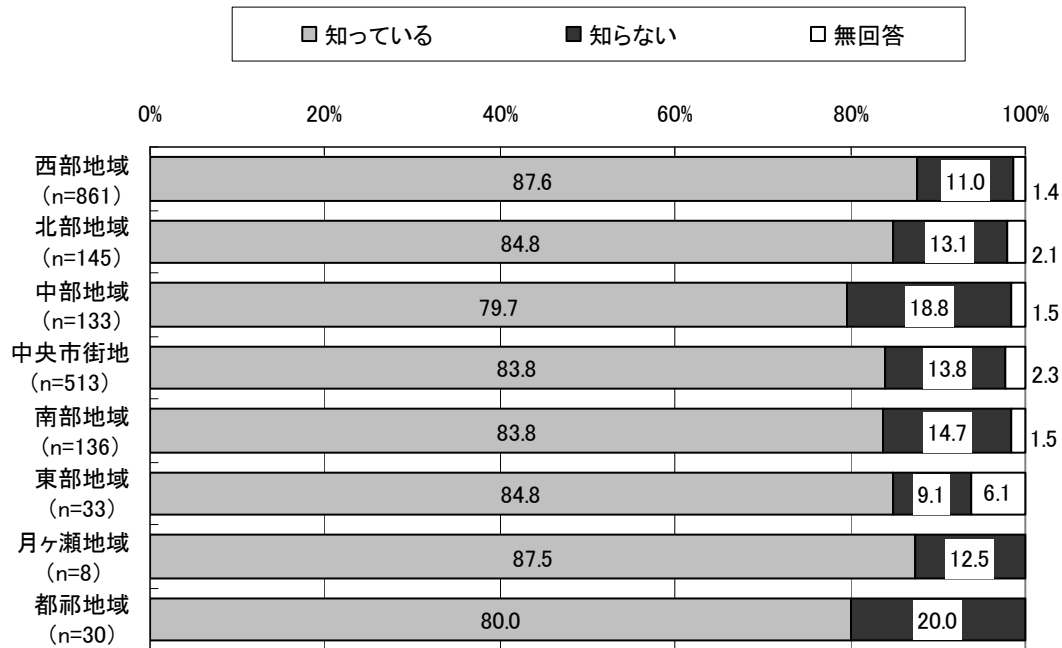
住宅用火災警報器設置が義務付けられたことの認知状況をみると、「知っている」が84.9%で8割を超えている。一方、1割強の人は「知らない」と答えている。(図5-2)

図 5-2-1 (年齢別 住宅用火災警報器の義務付けについて)



年齢別にみると、20~29歳は認知度がやや低く、「知らない」が2割を超えている。(図5-2-1)

図 5-2-2 (地域別 住宅用火災警報器の義務付けについて)

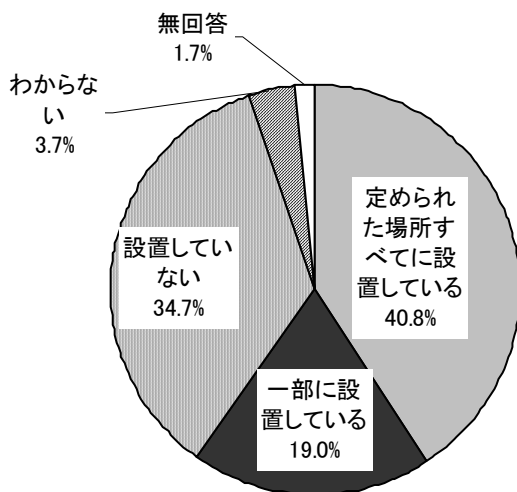


地域別にみると、西部地域は「知っている」が 87.6%で認知度が最も高い。都祁地域と中部地域は「知らない」が高く、認知度は他の地域よりやや低くなっている。(図 5-2-2)

5-3 住宅用火災警報器の設置状況

問 16 住宅用火災警報器の設置場所は、原則として、住宅の各寝室および2階以上に寝室がある場合は、階段の天井部分となっています。あなたのお住まいの住宅には、住宅用火災警報器が設置されていますか。(1つ選択)

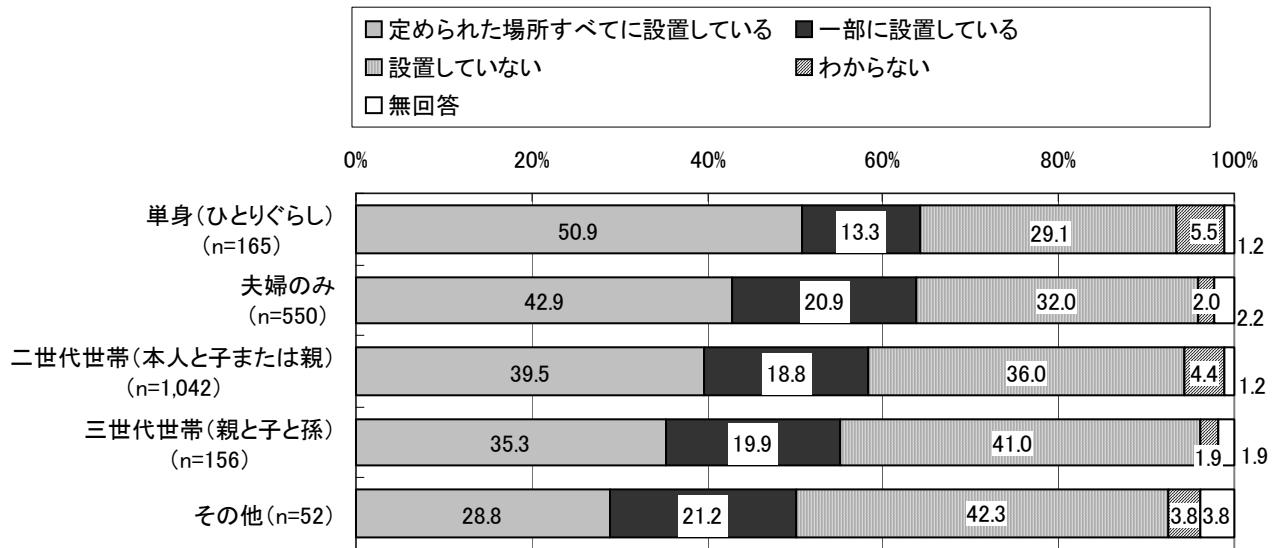
図 5-3 (住宅用火災警報器の設置状況) 【n=1,980】



住宅用火災警報器の設置状況を尋ねると、「定められた場所すべてに設置している」が 40.8%、「一部に設置している」が 19.0%で、一部設置と合わせても約6割という状況である。

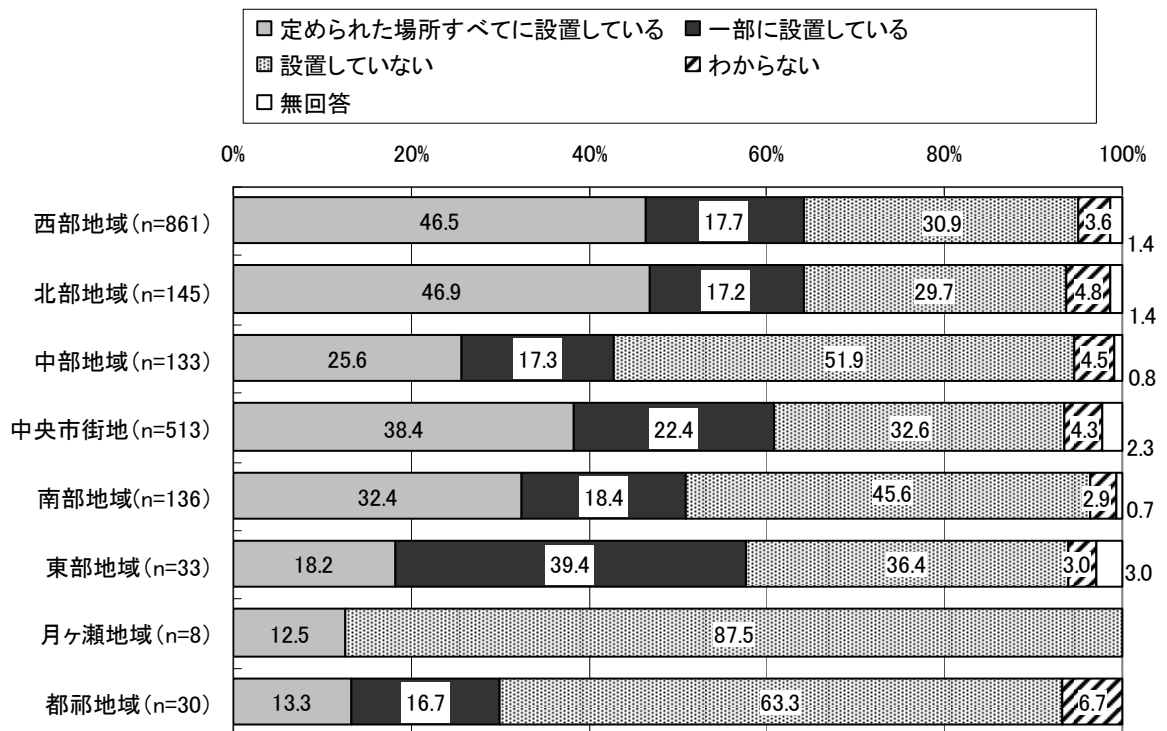
一方、「設置していない」は 34.7%で、3人に1人の家庭では設置されていない。(図 5-3)

図 5-3-1 (家族構成別 住宅用火災警報器の設置状況)



家族構成別にみると、単身世帯では「定められた場所すべてに設置している」が高く 5割を占めている。三世帯世帯では「設置していない」(41.0%) が他の世帯よりも高い。(図 5-3-1)

図 5-3-2 (地域別 住宅用火災警報器の設置状況)

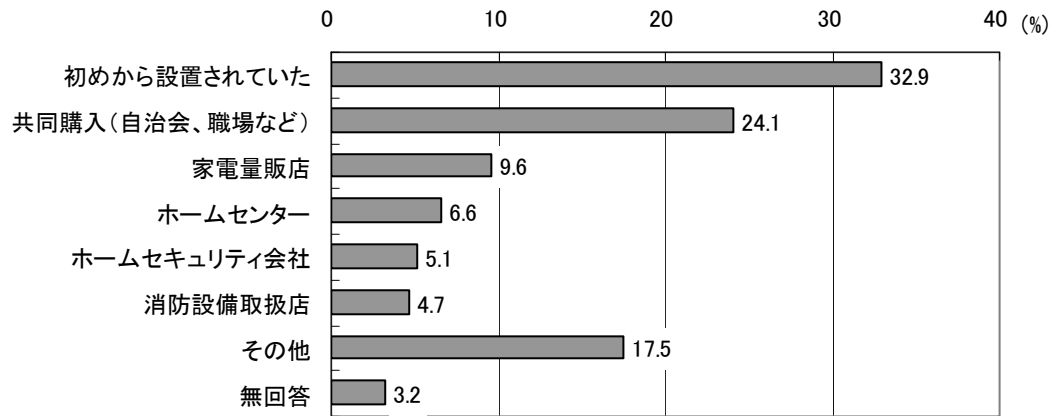


地域別では、北部地域と西部地域では「定められた場所すべてに設置している」がやや高い。月ヶ瀬地域、都祁地域、中部地域では「定められた場所すべてに設置している」と「一部に設置している」を合わせた割合が低く、「設置していない」が5割を超えている。(図 5-3-2)

5-4 住宅用火災警報器の購入場所

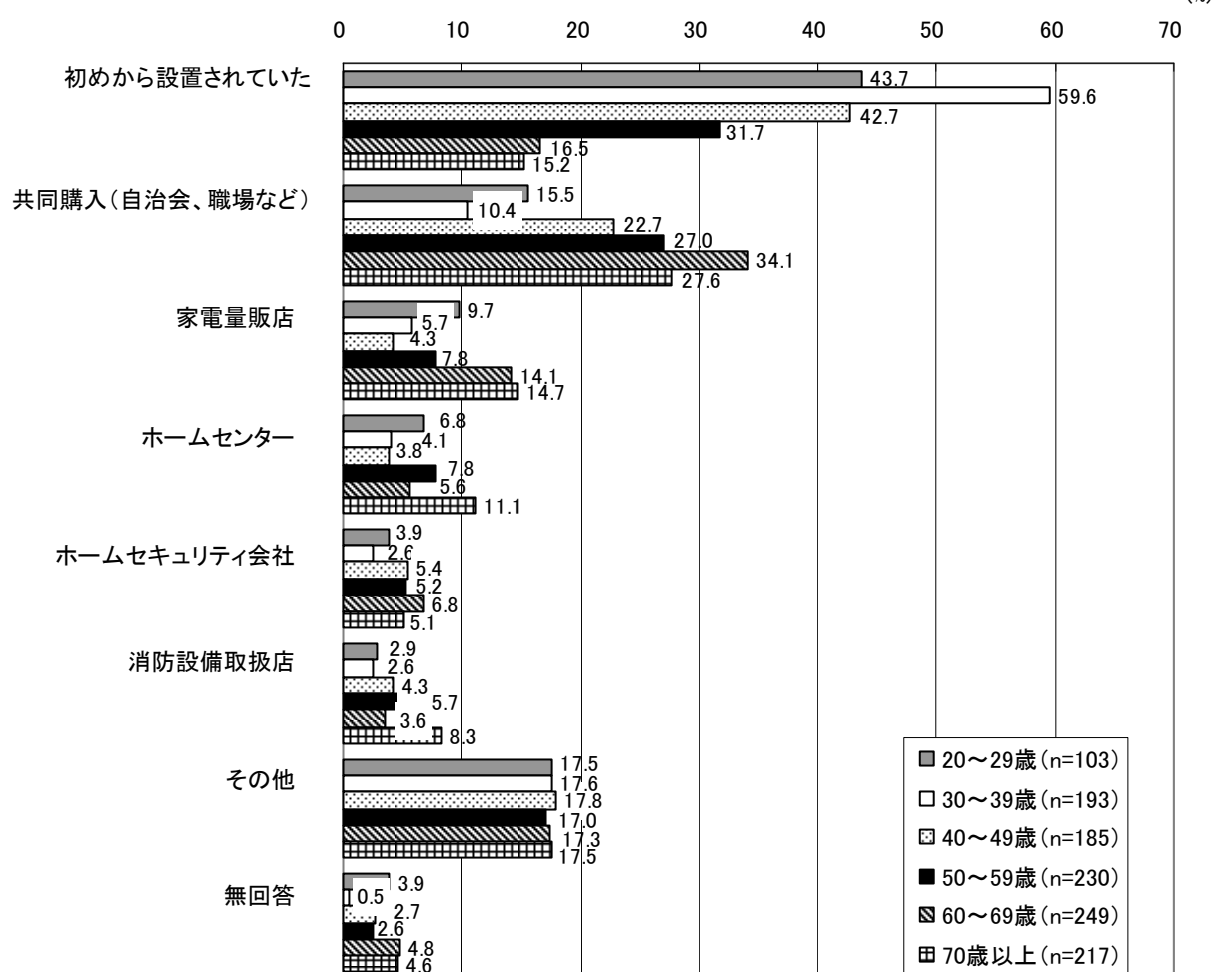
問16-1 問16で「1. 定められた場所すべてに設置している」「2. 一部に設置している」と答えられた方におたずねします。どこで購入されましたか。
(あてはまるものすべてに○)

図5-4 (住宅用火災警報器の購入場所)【n=1,185】



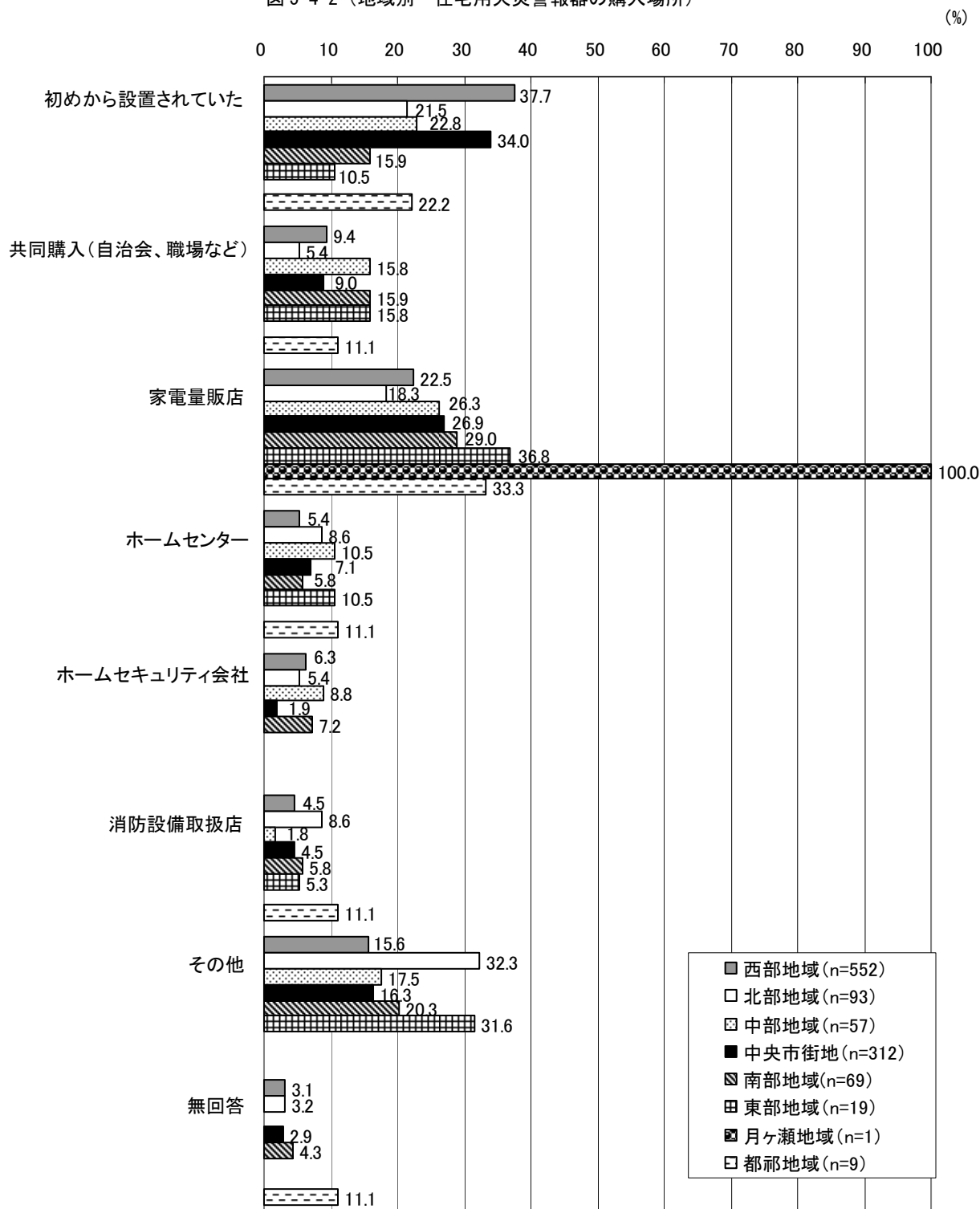
問16で「1. 定められた場所すべてに設置している」「2. 一部に設置している」と答えた方に購入場所を尋ねたところ、「初めから設置されていた」が32.9%で最も高く、次いで、「共同購入(自治会、職場など)」が24.1%となっている。(図5-4)

図5-4-1 (年齢別 住宅用火災警報器の購入場所)



年齢別にみると、30～39歳で「初めから設置されていた」（59.6%）が最も高い。60～69歳では「共同購入（自治会、職場など）」（34.1%）が他の年代より高い。（図5-4-1）

図5-4-2（地域別 住宅用火災警報器の購入場所）

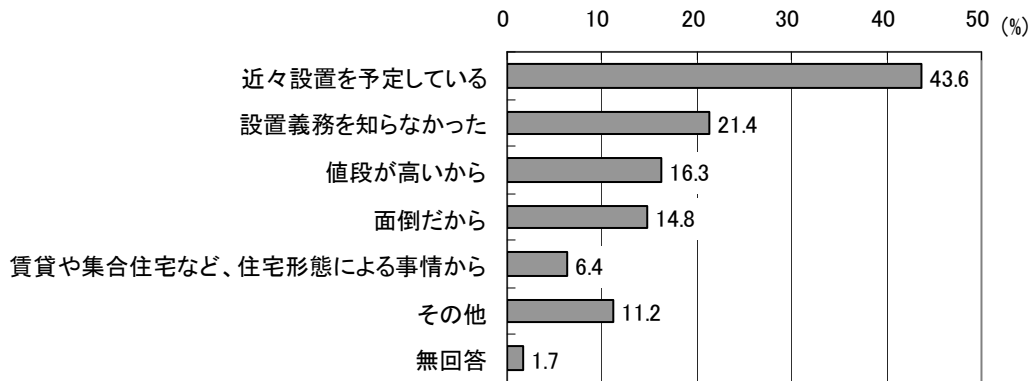


地域別にみると、西部地域と中央市街地で「初めから設置されていた」がやや高くなっている。東部地域では「共同購入（自治会、職場など）」（36.8%）が他の地域より高くなっている。（図5-4-2）

5-5 住宅用火災警報器を設置していない理由

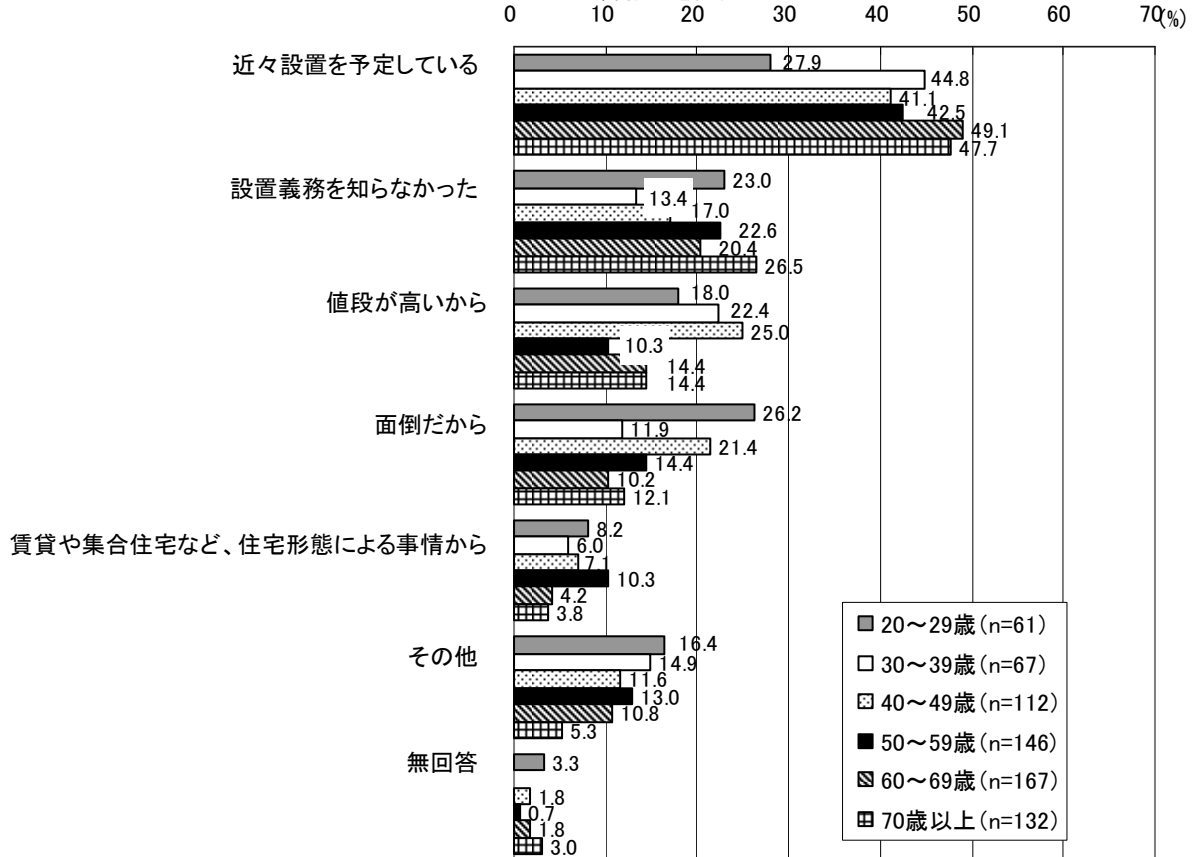
問 16-2 問 16で「3. 設置していない」と答えられた方におたずねします。設置していないのは、どのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

図 5-5 (住宅用火災警報器を設置していない理由) 【n=688】



問 16で「3. 設置していない」と答えた方にその理由をたずねると、43.6%の人は「近々設置を予定している」とのことであった。次いで、「設置義務を知らなかった」が 21.4%、「値段が高いから」が 16.3%、「面倒だから」が 14.8%となっている。(図 5-5)

図 5-5-1 (年齢別 住宅用火災警報器を設置していない理由)



年齢別にみると、すべての年代で「近々設置を予定している」が最も高いが、20~29歳は 27.9%にとどまっている。20~29歳と 40~49歳では「面倒だから」が高く 2割を超えている。(図 5-5-1)